

会 議 録	
件 名	第1回いわき市文化政策ビジョン策定検討委員会について
日 時	令和2年7月3日（金）13:30～14:30
場 所	いわき市役所 本庁舎3階 第3会議室
出席者	<p>■ 検討委員会委員（出席：10名、欠席：2名） 田村 学 委員、長谷川 由美 委員、田仲 桂 委員、阿部 峻久 委員、 箱崎 友清 委員、山口 憲二 委員、鈴木 敦子 委員、石原 万里 委員、 小林 裕明 委員、長野 隆人 委員 欠席：坂本 新輔 委員、佐々木 吉晴 委員</p> <p>■ 事務局 渡邊推進監、津田文化スポーツ室長、本田課長、園部補佐、伊東係長、佐藤</p>
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 委員及び事務局自己紹介 今回が初顔合わせであることから、各委員から自己紹介を兼ねて一言ずつ挨拶をもらう。その後、事務局側も推進監から順に紹介をした。</p> <p>3 委員長・副委員長選出</p> <p>司会) 本委員会設置要綱第5条の規定により委員長・副委員長各1名を互選により選出することとなっていることを説明し、選出方法について委員に諮る。</p> <p>委員) 「事務局から案があればお示しいただきたい」との声あり。</p> <p>事務局) 事務局として、委員長に「山口 憲二 委員」、副委員長に「田村 学 委員」を提示する。</p> <p>司会) 事務局案について委員に諮る</p> <p>～ 委員から、異議なしの声 ～</p> <p>設置要綱第6条の規定により「委員長は、会議の議長となる」ことから、山口委員長を議長席に案内する。</p>	

4 議 事

委員長)

一言挨拶。

それでははじめに、「議事」として

- (1) 「いわき市文化政策ビジョン策定に向けた取組みについて」
- (2) 「文化芸術に関するアンケート調査結果概要について」があるが、関連事項なので、一括して事務局から説明願う。

事務局)

～ 事務局説明 ～

- (1) 「いわき市文化政策ビジョン策定に向けた取組みについて」
 - ① 背景及び経緯
 - ② 計画の位置付け
 - ③ 文化政策に係るこれまでの取組み
 - ④ 計画策定スケジュール

- (2) 「文化芸術に関するアンケート調査結果概要について」
 - ① 調査の目的・概要 等

今回のアンケートにおいては、特に若い世代の回答者の割合が少ない結果となった。まちの活力・魅力の創出や持続といった点で、若い世代の市内への定着が不可欠であることから、今後の個別ヒアリングでは、学生などの若い世代の意見を積極的に収集していきたいと考えている。今のコロナ禍の中で、どのような方法で意見を集めるのがいいのか、本委員会の中でもアイデアをもらいながら方策を検討していきたいと考えている。

委員長)

今回は第1回目ということで、一つは顔合わせ、もう一つは我々の役割の確認が目的かと思う。

只今、ビジョン策定に向けた取組み等概要について事務局から説明があったが、これについて何かご意見やご質問はあるか。

委員長)

では、私からの質問だが、文化芸術と一概に言っても意味がかなり広がる。

今回のビジョンの策定にあたり、文化をどの程度まで踏まえて考えればいいのか、生活様式の精神的な側面等まで含めるような広い意味で文化を考えていくのか。そういったところまで本委員会で議論するかは不明だが、何か考えがあるのなら、事務局から聞きたい。

事務局)

文化の捉え方については、様々なものが文化という言葉に含まれてくると思う。本ビジ

ョンについても、出来るだけいわきの特色を活かしたような作りにしたいと考えており、その中で、文化の範囲をどの部分まで含めて考えていけばいいのかというところも、この委員会の中で議論して決めていければと考えている。

委員長)

他にご質問はあるか。

委員)

アリオスや美術館以外の草野心平記念文学館や暮らしの伝承郷等の文化施設について、資料で触れていないのはどういうことか。

事務局)

資料の上では、「文化振興課の取組み」のなかで、草野心平記念文学館や暮らしの伝承郷は「文化施設」として集約して記載しているが、草野心平記念文学館や暮らしの伝承郷は当課の所管施設なので、別の機会に施設の取組み等について紹介させてもらえればと思う。

委員)

言いたいことは、施設の所管部署が、市長部局や教育委員会など様々で統一が取れていないので、はたから見ていると、各施設で実施していることが縦割り行政のようにばらばらで効率が悪いように見える。よってビジョンの策定にあたっては、市全体としての観点に立った上で考えていかないとまずいのではないかという印象がある。

事務局)

今回の資料では、代表的なものとしてアリオスと美術館を取り上げたが、その他の文化施設を省いているということではなく、今回のビジョンを策定していく過程において、草野心平記念文学館や暮らしの伝承郷等も含めて、文化施設等はどのように運営していくのがよいのかを議論してもらえればと思っている。

委員長)

他に何かあるか。

なければ、「その他」に移る。事務局から説明願う。

事務局)

第2回検討委員会は8月に開催を予定しているが、詳細については、日程が決まり次第別途通知させてもらう。

委員長)

地方自治体の文化政策について、各委員は様々な思いを持っていると思うので、第2

回目以降の議論に繋がるような意見を持っているのであれば、この場でお知らせいただければありがたいのだが。

委員)

先程の話の流れで聞きたいのだが、図書館というのはいろいろな情報を発信するにはいい場所であると思うのだが、今回のビジョン策定の中では、どのような位置付けになるのだろうか。

事務局)

図書館は、市の施設の枠組みとしては文化施設ではなく、社会教育施設という位置付けとなっており、今回の資料等では取り上げていないが、全く関連しないということではなく、教育部門の計画である教育大綱等とうまく連動させ、それぞれにとって効果的に進めていけるような取組みができれば良いのではないかと考えている。

委員)

我々の活動拠点である公民館等、教育委員会が所管する社会教育施設が資料で触れられていない。我々が公民館などで行う活動が集まって市の文化になるわけなのに、縦割り行政で、社会教育施設がビジョンに組み入れられないのではないかと危惧している。

委員長)

我々の目的はビジョンの策定であって、個別にどの施設が含まれ、含まれないかを選別するのではなく、横串としてのビジョンを策定できればいいのではないかと個人的には考えている。また、文化は施設の中だけにあるのではなくて、施設を出たところにも存在すると考えている。例えば、いわき市では海とか、炭鉱の歴史とか、そういった中から子どもたちが様々な刺激を受けて、後に優れた文化活動に携わっていくのではないだろうか。文化というのは、そこに暮らしている人たちの、思いもかけないようなところで影響を与えていくようなものなので、議論を施設の中だけの取組みに限定するのはまずいのではないかと考えている。

委員)

2016年から、潮目実行委員会で地域の若い人たちと活動をしてきて、文化芸術活動をしていない一般市民に対して、どうすれば文化芸術に触れる機会が作れるかを考えてきた。潮目実行委員会の活動は、白水地区の住民の方を主体に、文化、福祉、教育等の各行政関係の方々と手を取り合って実施できたものであり、先程から縦割り行政の話がでているが、文化芸術とは、そういったものを越えて、様々な人が関われる基盤を作ることができるものであると感じている。また、いわき市はとても多様性のあるまちだと感じており、そういうところが市民にわかってもらえるようなものをビジョンに取り込んでいきたいとも思っている。

委員長)

他に意見はないか。

委員)

普段、文化財保護という観点から文化財（古文書、芸能、建築物等）を見ることが多いのだが、平成31年に、インバウンドを踏まえて文化財保護法が改正され、法の目的が保護から活用に大きく舵が切られた。やり方、バランスの問題だと思うが、活用だけに焦点を当てて事業を実施したのでは、文化財の破壊に繋がってしまうのではないかととても懸念している。文化財を活用することは、色々な方が関わり、支援も受けられ、地域が活気づき、ポジティブでとてもいいと思うのだが、同時に活用の仕方についてはとても注意が必要だとも感じている。

委員長)

只今「インバウンド」という言葉が出たが、委員、経済的な側面から、この文化政策ビジョンに対しての思いなどあればお願いしたい。

委員)

コロナ禍で、いろいろな価値が変わっていった中でも、文化芸術は改めて必要なものと再認識し、また支えていかななくてはいけないものだと思う。これからの時代は、地域と一緒にどうやって育っていくか、みんなが何かをしながら同時に人に何かを与えていくような時代になると思う。そのような中で、事業者等の経済側の人間は、文化をどう捉えればいいのか、活動をどう見ればいいのか、それにどのように関わればいいのかわからないというのがあるので、今回の文化政策ビジョン策定の中で、これを地域の重要な要素として、各分野の人たちがこれに関わる上で、どうすればウィンウィンの関係を築いていけるのかを探っていければと思っている。また、この様な機会に、今後に向けた進み方が明確になっていけば、色々な方が色々な関わり方をもって、文化というものをもっと広げていけるのではないかと思う。

これからの時代、地域の振興を図る上で地域に人が根づくことが必要であり、仕事だけでは人は動かず、それ以外の魅力が必要であり、文化はその可能性をとて感じる分野である。人・仕事の誘致においても文化は大きなマグネットの役割を果たすものとして、事業者も考えつつあると思う。

委員長)

我々のスタンスとして、市民が人間らしく生きていくために、文化芸術というものはなくてはならないものだということを共有しておきたいと思う。

他になければ、第1回の検討委員会は以上にしたいと思う。

5 閉 会

